

仮想アース Crystal Ep-G の導入(5)(HP 収載)
ースピーカーアキュライザーへの適用(2)ー

1. 始めに

前報(2)では Crystal EpY-G を EMT981 に、前報(3)では Crystal EpY-G を Sonica DAC にそれぞれ Crystal EpY と入れ替えてみました。また、前報(4)では EMT981 と Sonica DAC は、もとの Crystal EpY に戻し、Crystal EpY-G をスピーカーアキュライザーに適用してみました。その結果、それぞれすべてにおいて顕著な効果を認めました。今回は、EMT981 と Sonica DAC の Crystal EpY を Crystal EpY-G とし、スピーカーアキュライザーの Crystal EpY-G を Crystal EpY とするように相互に交換してみます。

2. Crystal EpY-G の試聴計画

Crystal EpY-G の適用箇所は上記のとおり EMT981 と Sonica DAC とし、Crystal EpY をスピーカーアキュライザーにします。

音源は、前報(4)と同じ下記を使用します。

STAGE+

ベートーヴェン ピアノソナタ 30 番 31 番 32 番

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ

シュロモ・ミンツ(ヴァイオリン)

アナログ

LONDON 360R 56009

モーツアルト デヴェルティメント第 17 番

ウィリーボスコフスキー指揮ウィーンモーツアルト合奏団

Angel AA-9117・C

ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

CD

harmonia mundi / King International KKC-5635/38

ベートーヴェン ピアノ 3 重奏曲

トリオ・ヴァンダラー

3. Crystal EpY-G の試聴結果

最初に前報(4)の条件で聴いておき、上記のとおり入れかえて聴いていきます。
ベートーヴェンのピアノソナタは、上記のとおり入れかえますと、入れ替え前とあまり変わりません。
バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、上記のとおり入れかえますと、入れ替え前とあまり変わりません。
これら STAGE+では、Crystal EpY-G を上流の Sonica DAC に使用するか、下流のスピーカーアキュライザーの違いです。
モーツァルトのデヴェルティメント第 17 番は、前報(4)のスピーカーアキュライザーの Crystal EpY-G が Crystal EpY に代わったことで、弦楽アンサンブルのふくよかさとしなやかさは一定程度確保されていますが、解像度は若干後退します。
ヘンデルのメサイアは、前報(4)のスピーカーアキュライザーの Crystal EpY-G が Crystal EpY に代わったことで、合唱の分離は若干後退し、ソリストの歌唱や楽器の質感も後退します。
以上からアナログでは前報(4)の条件の方が望ましいということになります。
ベートーヴェンのピアノ 3 重奏曲は、上記のとおり入れかえますと、前報(4)とそれほどの変化はありませんが、若干力強さがあります。
CD 再生では、Crystal EpY-G を上流の EMT981 に使用するか、下流のスピーカーアキュライザーの違いです。

4. まとめ

STAGE+4 の再生では Crystal EpY-G を Sonica DAC に使用してもスピーカーアキュライザーに使用しても変化はありません。
アナログの再生では、前報(4)のスピーカーアキュライザーに Crystal EpY-G をセットする条件の方が望ましいということになりました。
CD の再生では、EMT981 に Crystal EpY-G をセットする方の力強い音も魅力的です。
以上を総合的に勘案して、前報(4)のスピーカーアキュライザーに Crystal EpY-G を使用していくことにします。

以上